



芦安中学校だより

第 16 号

校長 大石 浩雄

2026. 1. 21

新年あけましておめでとうございます。年末から高校ラグビーや高校サッカー、春高バレー、箱根駅伝等たくさんの学生スポーツ大会がありました。それを見ていて、目標に向けてひたむきに取り組むことのすばらしさをあらためて感じました。2026 年、ひたむきさを大切にしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今回のたよりは 12 月中旬から 1 月の内容になっています。時系列にそって記事が並んでいます。少し時期が遅いと感じるものもあるかもしれませんがご容赦ください。

☆サンタ主催のクリスマス会

12 月 16 日(火)の 6 校時にサンタクロース(生徒会)主催のクリスマス会が行われました。サンタ服を着た進行役が一生懸命会を進めてくれていました。主な内容はゲームとクイズとプレゼント交換。最初のゲームは、ひとりだけ違う言葉が書かれたカードを持つ人を見つけるゲーム(ワードワulfというそうです)でした。互いに周囲の様子を伺いつつ、何とか周りの人から情報を引き出そうと工夫をして話しかける様子がありました。2 番目のクイズは、何の行事の時の写真かを当てるクイズでした。正解した人から、お互いが用意したプレゼントの包みの中から好きなものを一つ選んでいけるというものでした。最後にサンタからのプレゼントが全員に配られ、2 つのプレゼントを開封しました。

今回のクリスマス会は、時間にすれば 50 分程度で、食べ物や飲み物はありませんが、主催のサンタたちが工夫してみんなが楽しめる、コミュニケーションがとれる内容を考えてくれたものでした。サンタのおかげで生徒一人一人が笑顔になった時間だったように感じました。同時にこうした機会がもっとたくさんあっていいのではないかと感じました。生徒たちの中から次なるサンタが出てくることを期待したいと思います。



☆小さな学校でも表彰がたくさん

これまでも本校生徒が受けた表彰について随時紹介してきましたが、2 学期末にあわせてさらに表彰の連絡を受けましたので披露いたします。

第 39 回技術家庭科生徒作品展で 2 年生の根本さん、横谷さんが優秀を受賞しました。また、教育祭小中学校図工・美術作品展で中巨摩特選を 3 年生の金川さんと原田さん、2 年生の横谷さんと根本さん、1 年生の内藤さんが受賞いたしました。さらにこの 5 名の内、金川さん、横谷さん、内藤さんの 3 名は県特選に選ばれました。おめでとうございます。



どちらの作品展も、授業の中で作成したものを出品します。はじめからやる気がない、途中で投げ出すといったことでは、よい作品はできないでしょう。制作のための技能だけでなく、授業に取り組む姿勢・態度ということも含めて評価されたのだと思います。今後も生徒に、学びに向かう力も大切な力であるということを伝えていきたいと思っています。

☆2 学期終業式の様子

12 月 22 日(月)に 2 学期の終業式がありました。式の中では、生徒代表や生徒会長が 2 学期を振り返りについて話をする機会がありました。個人としてあるいは生徒全体として自分たちの成長にしっかりと目を向けた話をしてくれました。その生徒たちの言葉の中で、「自分たちで話し合い、自分たちで決めてみんなで行動できたことがよかった」ということがありました。生徒たち自身が自分たちの成長を実感した言葉を聞いて、学校全体で生徒の主体性を引き出そうと取り組んできてよかったと思える瞬間でした。

学校生活の中には、入学式や卒業式、始業式や終業式など儀式的な行事が時々あります。芦安中ではこうしたときに、話す機会が全員に与えられるようにしています。人前で話することは生徒にとって緊張すること



かもしれませんが、生活を振り返り自分の言葉で語る、仲間が感じていたことを聞くということはとても意義のあることだと思います。今回の終業式での話を、それぞれの生徒が3学期からの生活にいかしてくれるといいと思います。

☆3学期のスタートです

17日間の冬休みが終わり、1月9日(金)から3学期がスタートしました。始業式では各学年の生徒や新生徒会長が冬休みの振り返りや新年の抱負について話をしてくれました。その中では、12月中に課題を終わらせ新年は自分の苦手教科に取り組んだことや、友達や家族と過ごす中で自分の将来について考えたこと、苦手なことをあきらめていた自分を振り返ったこと、目標達成のために準備をしっかりとしたこと、経験が成長の糧となると実感したこと等、有意義な時間を過ごせた様子が伺えることが話されました。



3学期は期間が短いですが、1年間のまとめと次年度への準備を進めるための大切な期間となります。生徒たちが3学期の最後に「自分はこの1年間でこんなところが成長できた」「4月からこれができるように準備ができています」と自信をもって言えるようにひとつひとつの授業や行事、活動を充実させていきたいと思っています。

☆2026年はチーム芦安中で

スポーツにおいてよいチーム作りを実現するためには選手、指導者(監督やコーチ)だけでなく、チームスタッフや選手家族、地域、応援するファンなどチームを取り巻く多くの人の連携協働が必要だと言われます。このことはよい学校をつくろうとしたときと多くの共通項があります。よい学校づくりを進めていくためには、生徒や教職員だけでなく保護者、地域、外部機関を含めた広い範囲での協働連携が必要になります。

目標に向けてよいチーム作りを進めるためには、それぞれの立場の人が考えや意見を言うことが大切です。しかし、その意見が目標とする方向とずれていたり、全体としてのバランスに欠けていたりしては、せっかくの意見も機能しません。ひとりひとりの目線をそろえることが大切なのです。

2026年は冬季オリンピックをはじめ大きなスポーツイベントがいくつもあります。勝敗を越えたところでチームとし



てのまとまりを見ることがきっとできると思います。

2026年の芦安中学校もチームとしての目線をそろえて、より高い目標へ到達できるようにしていきたいと思っています。

☆ALTのブレンドン先生(B先生)が表彰されました

この冬休み中に芦安小中学校でALTとして英語活動や授業を支えてくれているブレンドンサドラー先生が、自身の所属するALT派遣会社のインタラックより全国優秀指導者として表彰されました。おめでとうございます。



インタラックは南アルプス市だけでなく全国の学校に多くのALTを配置している会社です。その中から、これまでの実績に基づき選ばれたということで大変すばらしいことだと思います。こうした素晴らしいALTが授業やその他の活動で芦安小中学校に関わってくれることをうれしく思います。同時に、生徒たちにはこうした恵まれた環境をいかして自分の英語力をどんどん高めていてもらいたいと思います。

☆小中合同英語活動(イングリッシュゲーム)をしました

1月20日(火)の朝の時間を利用して3学期最初の小中合同活動としてイングリッシュゲームを行いました。今回の活動では、小学生が英語に親しめるようにすることを中学生の目標として取り組んできました。



当日は、小学校の多目的ホールに小学生を整列させるところから実際にゲームをして楽しみ終わりの会をするまで、中学生たち自身で進行できるように頑張っていました。こうした活動を通して小学生に、「自分もあんな風になれるになりたい。」といった気持ちを持ってもらえるのではないかと思います。

芦安中では小中合同の活動を通じて、中学生のコミュニケーション能力や仲間と協働する力、責任感や使命の自覚などの育成に取り組んでいます。個々の生徒で状況の違いはありますが、全員が「自分に必要な力を伸ばすために」という意識を持てるような支援をしていきたいと思っています。